



謹んで新春の招慶びを申し上げます

新冠町長 鳴海修司



新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えることとお喜び申し上げます。また、旧年中は町政への温かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、不安定な社会情勢と物価高騰など、町政を取り巻く環境は厳しい状況でございましたが、5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが2類相当から5類に変更となる明るい話題がありました。皆さまには、町で決定した感染対策や、様々な対応にご協力いただき、改めて心から感謝申し上げます。

社会的規制の緩和を受け、「にいかつぷふるさと祭り」が4年ぶりに開催されました。初日の降雨にも関わらず2日間の来場者数が1万3千人を数えるなど、関係団体の支えもあって、多くの町民の皆さんの笑顔に触れることができたイベントであったと実感しています。他のイベントにつきましても「4年ぶり」という言葉が並び、コロナ禍から平常に戻りつつあることは、非常に嬉しいことです。

さて、本町の産業を顧みますと、まず、軽種馬生産では、(有)パカパカファームで生産されました「コンティニユアス号」がイギリスで開催されたクラシック三冠レース「セントレジャー」を制覇する快挙を成し遂げられました。また、日高軽種馬農協が主催する北海道市場におきましても、町内生産牧場の売却頭数ならびに売却総額が、共に前年を上回る結果で終了し、引き続き、活発な取引が展開されることを切に願っています。

さらに、基幹作物のピーマンも好調を維持し、販売金額の最高額を更新したことは大変喜ばしいことです。

一方、新冠町立国民健康保険診療所政策事業におきましては、着工先送りという苦渋の決断をいたしました。最近の建設工事の状況は、建設費が急騰しており、諸資材の納入遅れから工期も延長される事業が数多く見受けられます。診療所政策に係る工事と同様で、当初想定していた本体工事費が、15億8千万円であったものが基本設計を終えた段階で25億円までに達し、更に増額となることや、工期が多年に及ぶことが容易に想定される状態になりました。この様な見通しから、当町の財政状況および今後の行政課題などを踏まえ、町民の利益を最優先に熟慮を重ねた結果、「政策が必要な考えに変わりはありませんが、そのタイミングは今ではなく、工事着手については、一旦、見送ることが最善である」との考えに至ったものでございます。唐突の方針転換となり町民の皆さまも困惑されたことと存じますが、世情を鑑みたくえでの結論でございますので、特段のご理解を頂きたいと存じます。

本年も私が目指す「思いやりと笑顔にあふれた新冠」の実現のため、「町民の声が生かされる町政」、「分かりやすく公平・公正な町政」、「町民と行政との協働のまちづくり」を常に念頭に置きながら、職員一丸となって、全力で町政を推進して参ります。

結びになりますが、皆さまにとりまして幸多き年となりますよう心からご祈念を申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。